

「認知症サポーター養成講座&ワークショップ」報告

お天気にも恵まれた5月20日（土）の午後に 330-A 地区では、初めての「認知症サポーター養成講座&ワークショップ」を開催いたしました。この講座は、厚生労働省から、各自治体に委任して、行っている認知症サポーター制度の一環で、認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守る「応援者」の養成を目指しています。村木ガバナー、山浦ライオンズクラブ代表国連薬物担当大使、細川ガバナーエレクト、今井次期第一副地区ガバナー、阿久津元ガバナー、中野元ガバナーをはじめ、江東中央ライオネスクラブからのご参加もあり、参加者は80名となりました。

後援事業に指定していただいた豊島区から派遣された講師の先生は、ご自身も認知症のお父様の面倒を見られ、今は介護事業の仕事をされており、まさに現場を知っての具体的なお話しは、多くの方をひきつけました。当初、女性の方が関心を持ち、共感を持って活動していただけるテーマとして、この講座を開催いたしましたが、男性のご出席者も多く、「非常に勉強になった。」「父母が元気なうちに、もっと前にこの話を聞いたかった。」などの感想をいただきました。

10グループに分かれてのワークショップでは、「認知症にならないようにするためには、どうするか？」のテーマを選ぶグループがほとんどで、「ストレスを発散する場を作る」「何かの活動を続ける」「気持ちを明るく保ち、笑いを絶やさない」などのキーワードから、結局ライオンズクラブとしてのアクティビティを続けることが大事ではないかという結論も出てまいりました。

懇親会には、子ども食堂のお手伝いの後、小川 FWT エリアリーダー（東日本担当）も駆けつけてくださいました。私たち、女性参画・レオ・ライオネス委員会は、総勢11名の委員会であり、FWT 委員会、青年アカデミー委員会のご協力のもと、本講座を開催できたことを大変喜ばしく思っております。

この「認知症サポーター養成講座」はクラブ単位でも、地元の区市町村に依頼すれば、講座を開いていただけますので、ぜひクラブ活動にも取り込んでいただきたいと思います。90分の講座を受けて、サポーターとして認定された証としていただけるオレンジリングの輪を広げていきたいと思っております。